

## 1. 基本方針について

ユニットケア「家」を意識した支援の中において、ご利用者自身の意思と自己決定を最大限に尊重し、個別支援の現実に向い毎月の家会議及び定期的なケース会議を開催し個々を尊重し「自分らしい生活の継続」を目指したケアに取り組んできた。

### 《具体的な施策》

- ご利用者個々の生活スタイルを尊重したケアと支援の提供について
  - ・ 一人ひとりのライフスタイルと在宅での生活暦を大切にすることで、ご利用者に合った生活リズムに取り組んできた。(無理のない起床や無理強いのないレクへの参加など)
  - ・ 「家」の生活の中でも、ご利用者の居室は大切なプライベートな部屋であるということを強く意識し、入室時は必ず声かけやノックをしてからの支援に努めた。
  - ・ 限られた人間関係での生活であるが、「家」間の行事や、外部からの交流により社会のなかの一員として位置づけを感じてもらえるよう努めた。
  - ・ ご利用者の家族との連絡を密にとることに努め、2ヶ月に1度のお便りや、身体等の変化時の電話連絡、また行事の案内や参加のお願いなど、ホームと家族との信頼関係を築けるよう努めてきた。
  - ・ 日常生活においては、無理強制的なレクの参加や行事への参加を勧めず、自分らしい余暇の過ごし方を大切にできるような誘導に努めた。(お一人で過ごされたい時などプライベートの時間がもてるように努めた。)
  - ・ 「身体拘束をしない」を基本に、言葉遣いも時として拘束になると云うことや、職員の表情や無視なども拘束であるということを周知徹底しケアに努めた。
  - ・ ケース記録の充実を図るため、手書きで行っていた記録から、パソコン入力の記録へ目指し、入力方法の勉強会を積極的に取り組んできた。また、「家」日誌等についても同様にパソコン入力へ移行した。今後アクシデント報告等についても導入を目指す。
  - ・ リスクマネジメントについては、委員会の充実により、「ヒヤリ・ハット」をメモ化にし、気軽に誰でも気づいたことを記入できる体制にした。また重大な事故を未然に防ぐことを目指し、従来の事故報告書を「アクシデント報告」に変え内容の見直しを行った。
- 職員の意識向上の充実について
  - ・ 毎月「家」会議の開催で「いいたてホーム」の目指すケアの確認をするよう努めた。また、各家の現況報告をすることで、他の家の取り組みを共通理解すると共に、自分たちの「家」を見直す機会を設け職員の意識向上に努めてきた。
  - ・ ケア会議を定期的な会議に留めず、その都度ご利用者の身体等の変化に合わせ必要に応じて会議を開催することで、ご利用者の状態把握の大切さを図ってきた。
- 関連部署との連絡徹底について
  - ・ 当ホームでのケアにおいて、医務室との連携はなくてはならない関係であることから、ご利用者の変化に気づいたら、即連絡対応して頂くと共に、介護サイドだけではより良いケアができないことを一人ひとりが理解できるよう周知徹底してきた。

- ・ 短期入所については、ケアマネとの密な連携を取ることで、安心安全なサービス提供に努めている。また、短期入所のご利用者は、在宅サービスの一環としての利用であるということとを常に意識しケアができるよう周知徹底してきた。

## 2. 重点事業目標について

### 1) 介護技術の向上について

- ・ 各「家」においてケアの取り組みの話し合いから、個々に合ったケアの提供や、基本的な介護技術から応用ができるようになり充実してきている。また、「家」の介護職員だけでなく、夜勤者も同じ介護に取り組めるよう申し送りの充実に努めてきた。

### 2) ケアプランの充実について

- ・ アセスメントを十分に行うことで、最も問題としていることを重点的に話し合い、出来ないことを目標とせず、できることからプランに盛り込むことに努めてきた。

### 3) 家（ホーム）向上委員会の充実について

- ・ 向上委員会を軸に、あらゆる面において、常に向上を目指し中心的な役割を果たせるよう話し合いをしてきた。

### 4) 家長会議の充実について

- ・ 家長はリーダーとして自覚を持つよう周知し、常に「家」だったら・・・という視点から物事を考え実践できるよう努めてきた。

#### (ア) 家族との連絡調整の徹底について

- ・ 2ヶ月に1度のお便り時、ご利用者の現況写真を添え近況をお知らせしている。また、誕生日のお誘いなども積極的に行った。

#### (イ) アクティビティと行事の実施について

- ・ 看護職員による楽しみながら参加できるレクの提供。また、個別毎に工夫し無理なくできるレクの提供により、マンネリ化しつつあった生活から少しずつ脱出できてきた。行事についても、全体、東棟西棟に分かれたもの、家単位で行うものに分けて実施することで無理なく参加することができてきた。

#### (ウ) 個々の生活支援について

- ・ 「家だったら・・・」を中心にしたケアを展開するうえで、毎月の食事・入浴・排泄をそれぞれ見直し、取り組むことが出来た。身体介護（食事・排泄・入浴）に係る基本的技術を常に意識し、応用力を身につけることでより良いケアに取り組めるよう努めてきた。食事においては、各家にフードプロセッサーを購入し、ご利用者のその日の体調や副食の形態によって食事の介助や食事用具の提供を行った。排泄においては、個々により日中や夜間常別にそのご利用者にあった排泄用具を用い、本人のストレスにならないような介助に心掛けてきた。入浴については、全体までは至っていないもののマイタオル・マイバスタオルを使用したり、マンツーマン入浴の充実に努めるよう取り組んできた。

### 3. 家長会議及び委員会活動報告について

#### ○ 家長会議内容

回数	月日	会議内容	月日	回数	会議内容
1回	4/4	17年度の取り組みについて	8回	9/27	敬老会・入浴について
2回	5/12	業務の見直しについて	9回	10/13	業務の見直しについて
3回	5/31	排泄勉強会について	10回	11/12	9回の見直し再度検討について
4回	6/17	排泄勉強会の見直しについて	11回	12/10	入浴の見直しと年末年始に向けて
5回	7/27	各家の情報交換について	12回	1/11	食事について厨房への要望
6回	8/17	食事・入浴・排泄の見直しについて	13回	2/9	パソコン入力勉強会
7回	9/6	6回検討事項の報告について	14回	3/28	17年度の反省について

#### ○ 環境委員会

月日	実施内容	反省・感想等
4月～5月	畑及び花壇作り 西棟は家毎に実施	村農業委員会の方の協力によりほほえみの家前の畑を耕して頂く。キュウリ・トマト・南瓜・いんげん・西瓜・茄子を植える。
5/24	東棟 ワックスかけ	大ホール・廊下 遅番の協力を得る。
6月	草むしり	ご利用者と一緒行っています。
7月	窓拭き・椅子掃除	家毎に実施
8/21	東棟 ワックスかけ	居室全室 遅番の協力を得る。
8月	野菜の収穫	キュウリ・茄子は漬物で提供 茄子ピーマン炒めや天ぷらでご利用者と一緒に調理する。 西瓜は各家に配りおやつとして食べる。
10月	畑・花壇の片付け	各家対応・東棟は環境委員が中心に行う。
11/20	東棟 ワックスかけ	大ホール・廊下 遅番の協力得る。
11月	居室以外の窓拭き	ユニット毎及び清掃員の協力を得る。
12月	カーテン洗濯	居室仕切りカーテンの洗濯 トイレカーテンの洗濯
	窓拭き	各家で実施
	高所すず払い	業者対応
	大掃除	各家台所周り集中的に実施（スチーム使用）
1月	椅子掃除	各家対応（スチーム掃除機使用）

#### ○ 行事委員会

月日	実施日・行事	内 容
4月	花見ドライブ	家毎に天気の良い日及び体調良好時、村内ドライブ。
5月	1日 家族会総会	家族会の顔合わせ及び花見会として会食会（各家）
	15日 母の日	各家に鉢植えカーネーションをプレゼント。
6月	19日 父の日	家毎に花の鉢植えや観葉植物をプレゼント。
7月	7日七夕	家毎に飾りを作成 願い事を短冊に書く。
8月	6日 夏まつり	東棟駐車場にて実施 盆踊り 模擬店
	19日 百歳賀寿	ぬくもりの家 横山子ヨ様 東棟大ホールにて。
9月	18日 敬老会	東棟大ホール 5行政区婦人会の踊り及び祝い膳
	29日 芋煮会	東棟→家毎 西棟→西棟交流スペースにて合同
11月	3日 運動交流会	東棟大ホール 全員参加（短期入所者も含む）
12月	25日 クリスマス	各家対応 ケーキを3時のティータイム時に食べる。
	28日 餅つき大会	東棟大ホールにて全員参加
1月	3日 新年会	東棟→大ホール 西棟→西棟交流スペース。
	13日 団子さし	各家対応 団子粉配布し利用者と共に団子作成する。
2月	2日 百歳賀寿	のどかな家 大浦英子様 東棟大ホール。
	3日 節分	各家にて実施→施設長が袈裟にて豆まきをする。
3月	3日 ひな祭り	東棟大ホールに雛人形を飾り季節感を味わう。

## ○ リスクマネジメント委員会

月日	議 題	内 容
10/24	委員会の取り組み	委員選出 ホームリスクマネジメントの指針確認
11/2	研修報告から	研修から学び、ホームで取り入れられるマネジメントについて。
12月	ヒヤリはっと集計	集計することで、事故等の内容及び発生時間などの確認と未然に防ぐ為の改善検討資料とする。
1/19	ヒヤリはっと・事故報告書の見直し	従来のヒヤリはっとをメモ化することで、誰もが気軽に記入でき事故防止策に繋げる。また事故報告書の内容を見直し、重複する内容の削除及び重要事項の記載を盛り込み名称も事故報告書から「アクシデント報告書」とするなどの提案を職員会議に諮る。
2/6	リスクマネジメントのマニュアル作成	防災・介護・医務分野に分けマニュアル作成し、トラブル発生時最大限の対応をスムーズに行えるようにする。
3/22	各マニュアル完成	上記のマニュアルを完成させ各家に配布し周知する。

## ○ 排泄委員会

- ・ 各家長が委員となり、オムツ発注の担当者とする。また、各種新製品の紹介やご利用者個々にあったオムツの取り入れをすることで自立生活を目指した。

## 4. 短期入所利用について

	日 数	延べ利用人数	1日平均	月平均
4月	30日	210人	7.0人	
5月	31日	244人	7.9人	
6月	30日	266人	8.9人	
7月	31日	234人	7.5人	
8月	31日	292人	9.4人	
9月	30日	244人	8.1人	
10月	31日	192人	6.2人	
11月	30日	205人	6.8人	
12月	31日	192人	6.2人	
1月	31日	227人	7.3人	
2月	28日	273人	9.8人	
3月	31日	236人	7.6人	
合計	365日	2,815人	7.7人	234.6人
(内訳)				
西棟	365日	2,565人	7.0人	213.8人
東棟	365日	250人	0.7人	20.8人

## 5. まとめ

既存施設のユニット化から約3年、ユニット施設では早2年が過ぎました。特に平成17年度のケアの取り組みは、ある意味変化を求められる年でもあったように思います。

例えば、ご利用者の居場所づくりから始まり、個々の生活ペースの充実、そして生活のマナー化からの脱出を図る等です。そうしたなかで、介護職員も様々な葛藤がありましたが、毎月、家単位で話し合いを行い、確認し、どんなことでも「もし家だったら・・・どんなケアが必要？」ということテーマに、「後退はない前進あるのみ」を合言葉に取り組んできたことは評価に値すると思います。

また、ケース記録についても、18年度から手書きの記録からパソコン入力へと移行するため、短い準備期間で、全員が習得したことも素晴らしいことだと思います。

反省点としては、各委員会の計画立案が不十分であり、計画は立てても協力体制に欠けていたり、取り組みが遅かったことなどが挙げられ大きな反省になっています。

また、各家の特徴がはっきりとしてきた年でもあり、介護職員の仕事への取り組みも家毎に差が生じてきたように感じられ、17年度の反省をしっかりと受け止め、次年度に繋げたいと思います。